

大盛館

(秋田県大仙市協和荒川)



方解石

国内有数の銅山として栄えた荒川鉱山

荒川鉱山は江戸時代の1700年に発見されて採掘を開始しました。産出する鉱石は、黄銅鉱・黄鉄鉱・閃亜鉛鉱・方鉛鉱などです。金・銀・銅は貨幣の原料であると同時に輸出品として重要な資源でした。鉱山の全盛期は明治末期から昭和初期頃で、1893年には尾去沢や阿仁銅山などに続いて全国の銅山の中で5番目の銅生産高を誇るほどでした。1912年には従業員2,021名、1917年には坑道の総延長が3,173 mに達し、1931年には銅1,894 tを産出しています。その後資源の枯渇により1940年に休山し、240年にわたる荒川鉱山の歴史は幕を閉じました。

鉱山が地域に与えた恩恵は少なくありません。鉱山に近代的な設備を取り入れるため発電所が建設され、近隣住民は秋田市よりも3年早く電力を使用していました。そのほかにも学力・スポーツの優れた学校として知られていた大盛小学校をはじめ、役場、病院、劇場、商店街、住宅がならぶ鉱山町は荒川村の中心地として多くの人が暮らしていました。

荒川鉱山とプロレタリア文学作家・松田解子関連資料を展示

大盛館では荒川鉱山に関する資料や道具・鉱石が約390点展示されているほか、荒川鉱山で育ち、のちにプロレタリア作家となった松田解子に関する展示が併設されています（松田解子文学記念室）。

住所：秋田県大仙市協和荒川字荒川前9番地1
開館時間：午前9時～午後4時30分
休館日：月曜日（月曜祝日の場合は水曜日）
12/29～3/31まで
入館料：無料

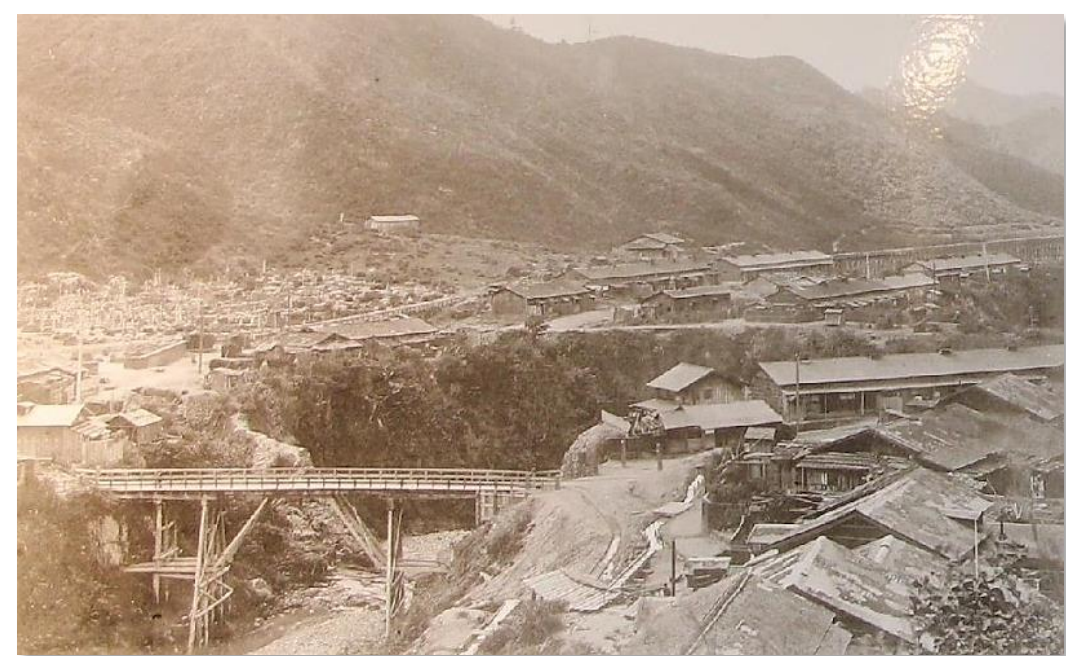


松田解子(1905-2004)

秋田県仙北郡荒川村出身。大盛小学校卒業後、鉱山事務所で働く。その後秋田女子師範に入学し、卒業後は教員として母校・大盛小学校に赴任。1926年に上京し、プロレタリア作家として数々の小説を執筆。母をモデルに鉱山で生きる人々の苦闘を描いた「おりん口伝」は田村俊子賞、多喜二・百合子賞を受賞し、代表作となった。



中央選鉱場跡
(現在の様子。建物はなくなり、土台が残されている)



大直利橋と鉱山墓地
(荒川鉱山から町を望む。墓地手前のといは発電所への水路)



あきた鉱山系資料館ネットワーク

秋田県内の5つの鉱山系資料館（協和公民館・大盛館、院内銀山異人館、北秋田市阿仁郷土文化保存伝承館、史跡尾去沢鉱山、秋田大学大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館）が、協働してさまざまな活動を展開しています。



秋田大学大学院国際資源学研究科附属

鉱業博物館

開館時間 ■ 9：00～16：00

休館日 ■ 年末年始（12/26～1/5）

入館料 ■ 大人100円、高校生以下無料

